

授業概要

本講義は、臨床心理士やカウンセラー、公認心理師など、心理専門職者が行う心理的サービスとはどのようなものであるかについて理解することを目標に講義します。具体的には、心理専門職者の役割と義務、職業倫理、サービス受領者の安心安全の確保、インフォームド・コンセントなどの他、専門家として求められる基本的資質や態度についても関係資料の解説や討論などを行いながら、より実践的に心理専門職者の心理的サービスのあり方について理解できるように講義を進めます。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス：授業の方針と受講者の心得について |
| 第 2 回 | 心理専門職者の仕事と社会的役割 |
| 第 3 回 | 心理専門職者の活動と職業倫理 |
| 第 4 回 | 保健医療制度と心理専門職者 |
| 第 5 回 | 医療従事者としての心理専門家の意味 |
| 第 6 回 | 保健医療における心理的サービス：業務と職域 |
| 第 7 回 | 保健医療における心理的サービス：チーム医療 |
| 第 8 回 | 教育分野における心理的サービスの実際：適応指導教室での役割 |
| 第 9 回 | 教育分野における心理的サービスの実際：発達支援と教育相談 |
| 第 10 回 | 教育分野における心理的サービスの実際：学校場面での他職種との協働 |
| 第 11 回 | 地域における心理的サービスの実際：子育て支援 |
| 第 12 回 | 地域における心理的サービスの実際：虐待問題への対処 |
| 第 13 回 | 地域における心理的サービスの実際：地域精神保健 |
| 第 14 回 | 産業領域における心理的サービスの実際：EAP とリワークプログラム |
| 第 15 回 | 産業領域における心理的サービスの実際：職場のトータルヘルスプロモーション |
| 第 16 回 | 期末試験 |

到達目標

1. 臨床心理士や国家資格心理専門職（公認心理師）の成り立ちを理解し、その社会的役割を自覚できる。
2. 臨床心理士や公認心理師の行う業務と活動の実際を理解し、説明できる。
3. 授業を通して、人々の福祉のために活躍・貢献するという高い意識を醸成する。

履修上の注意

1. 本講義は公認心理師を目指す場合の必須科目であることを十分理解した上で履修してください。
2. 事例等を活用した倫理問題なども扱うので、受講者にはしっかりとしたプライバシー保護の意識をもって受講することを期待します。

予習復習

授業に際しては、予習のために事前に講義資料等を配布するので、それを学習した上で授業に臨むことを期待します。

評価方法

成績評価は、中間評価 40%、学期末試験 40%、授業内レポート 10%、受講参加態度 10%。

テキスト

授業では、各トピックに沿った資料を配付する予定であるが、より具体的かつ深く学習するために以下の参考書を紹介する。特に、心理専門職として理解しておくべき法律と倫理の問題を理解するために、参考書として「保健と健康の心理学 保健医療・福祉領域で働く新離職のための法律と倫理」（ナカニシヤ出版）、金沢吉展「カウンセラー 専門家としての条件」誠信書房をあげておく。